

●長年ご使用のストロボ機器の点検をぜひ！

愛情点検	こんな症状はありませんか	このような症状のときは直ちに使用を中止してACプラグをコンセントから抜いて、弊社営業所または販売店にご相談ください。
	<ul style="list-style-type: none">●スイッチを入れても所定の時間で充電しない●通電中に異音、異臭、あるいは発煙する●ヒューズがすぐ切れる●ストロボ電源部やヘッドに触るとピリピリと電気を感じる●その他の異常や故障があるとき	

●ストロボは内部に高電圧を蓄える機器です。誤った操作、または異常を無視して使用すると、使用者への危害、または物的損害を与えることが予測されます。取扱い説明書の操作方法に従い、「警告」「注意」などを守って安全にお使いください。

●上記のような症状がなくても1年に1~2回は点検を受けられるようおすすめします。

アフターサービスについてのご相談は

COMET®

本社 〒174-0063 東京都板橋区前野町3-47-1
TEL.(03)5916-5786 FAX.(03)5916-5872
コマーシャル部 〒174-0063 東京都板橋区前野町3-47-1
TEL.(03)5916-5789 FAX.(03)5916-5876
仙台営業所 〒981-8003 仙台市泉区南光台4-29-25
TEL.(022)727-6521 FAX.(022)727-6523
東京営業所 〒174-0063 東京都板橋区前野町3-47-1
TEL.(03)5916-5788 FAX.(03)5916-5875
東京営業所 ストロボクリニック課 〒174-0063 東京都板橋区前野町3-47-1
TEL.(03)5916-5794 FAX.(03)5916-5878
名古屋営業所 〒464-0075 名古屋市千種区内山3-1-1
TEL.(052)735-9077 FAX.(052)735-9088
名古屋営業所 ストロボクリニック課 〒464-0075 名古屋市千種区内山3-1-1
TEL.(052)735-9077 FAX.(052)735-9088
大阪営業所 〒550-0015 大阪市西区南堀江2-9-22
TEL.(06)6536-0671 FAX.(06)6536-4020
大阪営業所 ストロボクリニック課 〒550-0015 大阪市西区南堀江2-9-22
TEL.(06)6536-0671 FAX.(06)6536-4020
福岡営業所 〒812-0008 福岡市博多区東光2-8-17
TEL.(092)411-1202 FAX.(092)411-1209
福岡営業所 ストロボクリニック課 〒812-0008 福岡市博多区東光2-8-17
TEL.(092)411-1202 FAX.(092)411-1209
海外事業部 〒174-0063 東京都板橋区前野町3-47-1
TEL.(03)5916-5786 FAX.(03)5916-5872

COMET

Dm-360TTL

取扱説明書

ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。



はじめに

このたびは、バッテリータイプモノブロックストロボDm-360TTLをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本機はロケーション撮影に必要な機動性と機能性を兼ね備えたストロボとして開発されました。
本体一体型のパワフルなリチウムイオン電池を採用し、フル充電で約250回のフル出力発光が可能です。
オプションのDm-コントローラーを使用することで無線シンクロ、ワイヤレス操作が可能です。
また、キャノン、ニコン高機能一眼レフデジタルカメラ搭載のE-TTL/i-TTL、高速シャター撮影モードにも対応しました。
コンパクトなDm専用アクセサリーも豊富に取り揃えました。
なお、ご使用になる前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、注意事項や使用方法を十分ご理解いただいたうえでご活用ください。

セット内容

- Dm-360TTL (Dmプロテクター、カメラリストシール、保証書)
- Dm-アンブレラリフレクター 120 φ
- Dm-シンクロコード 5m
- Dm-グリップ
- ダブルダボ
- リチウムイオン電池Dm-360用 (保証書)
- 充電器Dm-360用 (ACコード、保証書)
- ストラップ
- ショルダーバッグ
- 取扱説明書 (本書)

目次

1. 安全のため特にご注意ください	1~4
2. 使用上のご注意とお願い	5
3. 各部の名称とはたらき	6~9
4. Dm-コントローラー	9~12
5. リチウムイオン電池Dm-360用	13~15
6. Dm-グリップの取り付け	16
7. リフレクターの取り付け	16
8. メインスイッチのON/OFF	16
9. カメラの選択	17
10. チャンネルの設定	17
11. グループ設定	18
12. TTLモード / TTL高速シャッターモード	19~20
13. マニュアルモード / マニュアル高速シャッターモード	20~22
14. マルチ発光モード	22~23
15. フォトセル	24
16. モデリングランプ	24~25
17. サウンド	26
18. 出荷時設定	26
19. アンブレラの取り付け	26
20. ストラップの取り付け	27
21. RS-発信器 / RS-コントローラー	27~28
22. 過熱警報	28
23. 保証とアフターサービス	29
24. 仕様	30~31
25. プラブルシューティング	32

1 安全のため特にご注意ください



- ご使用の前に、この説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、この機器を使う人への危害、または物的損害を未然に防止するための注意です。
- 注意事項は危害や損害の大きさと切迫の度合いを明示するために、誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を、「危険」「警告」「注意」の3つに区分しています。

いずれも機器を安全にお使いいただくために重要な内容ですので、必ず守ってください。

危険：人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容。

警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

絵表示の意味



△記号は、危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な禁止内容(左図は感電注意)を示しています。



○記号は、禁止行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図は分解禁止)を示しています。



●記号は、具体的な指示内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容(左図はプラグをコンセントから抜いてください)を示しています。

お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

警 告



- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないでください。

電源部には、メインスイッチを切り本体から電池を取り外した後も、内部に長時間高電圧が残っており、感電の恐れがあります。



- 水に濡れる場所や湿度の高い場所での使用、また手足が濡れた状態、素足での操作はしないでください。

漏電による感電の恐れがあります。



- 清掃などでキセノンランプ部に触れるときは、ランプの電極部には絶対手を触れないでください。

メインスイッチを切り本体から電池を取り外した後も内部には長時間高電圧が残っており感電の恐れがあります。特に清掃を行うときは、一日以上使用していないときに限って行ってください。



- 本体スリット部には金属などの異物を絶対入れないでください。

感電、ショートによる発火の恐れがあります。



- ストロボは発光時、高温の熱を発します。人体に向けて近い位置で発光させたり、可燃物に向けての使用は絶対にしないでください。

火傷や火災の恐れがあります。



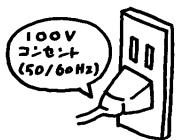
- 揮発性のガソリン、シンナー、可燃性ガスなどを使用している場所や、大量の粉塵が舞っている室内などでは絶対に使用しないでください。

爆発、火災、火傷の恐れがあります。



- 使用電圧はAC100V～240V(50/60Hz)です。

異なる電圧で使用すると感電、発火、火災の原因となります。(充電アダプター)



! 注 意



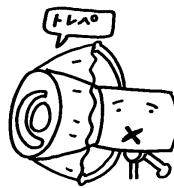
■ 使用中や使用直後のガラスグローブ、キセノンランプはかなりの高温になります。十分に温度が下がってから取り扱ってください。

火傷の恐れがあります。



■ ヘッド使用中は、紙や布または樹脂系のシートなど可燃物を近づけたり、覆っての使用はしないでください。

使用中はかなりの高温となり発火、火災の恐れがあります。



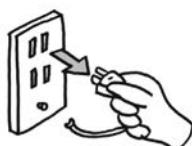
■ 落としたり衝撃が加わったときは、直ちに使用を中止し、弊社、またはご購入店で点検を受けてください。

外観的な変形がなくても内部の電子部品などの損傷で、感電や漏電の恐れがあります。コードの被覆損傷のときも同様に点検を受けてください。



■ 使用後は安全のため必ずACコードをコンセントから抜きとるか、ブレーカーなどをOFFにしてください。(充電アダプター)

発火、火災の恐れがあります。



リチウムイオン電池Dm-360用に関しての注意・警告は13~15ページを
御参照ください。

2 使用上のご注意とお願い

●ストロボ電源部は使用しないときでも1ヶ月に1~2度は必ず出力をFULLにして通電をしてください。

●3ヶ月以上(10ヶ月未満)の長期間ご使用にならなかったストロボ電源部は、出力をFULLにして最低4時間通電をしてください。
この間は絶対に発光させないでください。

●10ヶ月以上の長期間ご使用にならなかったストロボ電源部は通電せずに弊社クリニック課による点検(有料)を受けてください。
長期間ご使用にならなかったストロボ電源部は、通電または発光をくり返すとコンデンサーが発熱し、発火、火災の恐れがあります。

●過酷な使用で万一過熱警報がはたらいたときは過熱警告表示が点滅し、ブザー音で知らせます。

このときはメインスイッチを「OFF」にし、内部の温度が下がるまで使用を中止してください。

●Dm-コントローラー(別売)は無線LANと同様に2.4GHz帯の周波数を使用しています。無線LAN環境下では、電波の混信により受信不良を起こす場合があります。その場合、チャンネルを変更して同調テストをおこなってから、ご使用ください。(使用周波数: 2.402GHz ~ 2.481GHz)

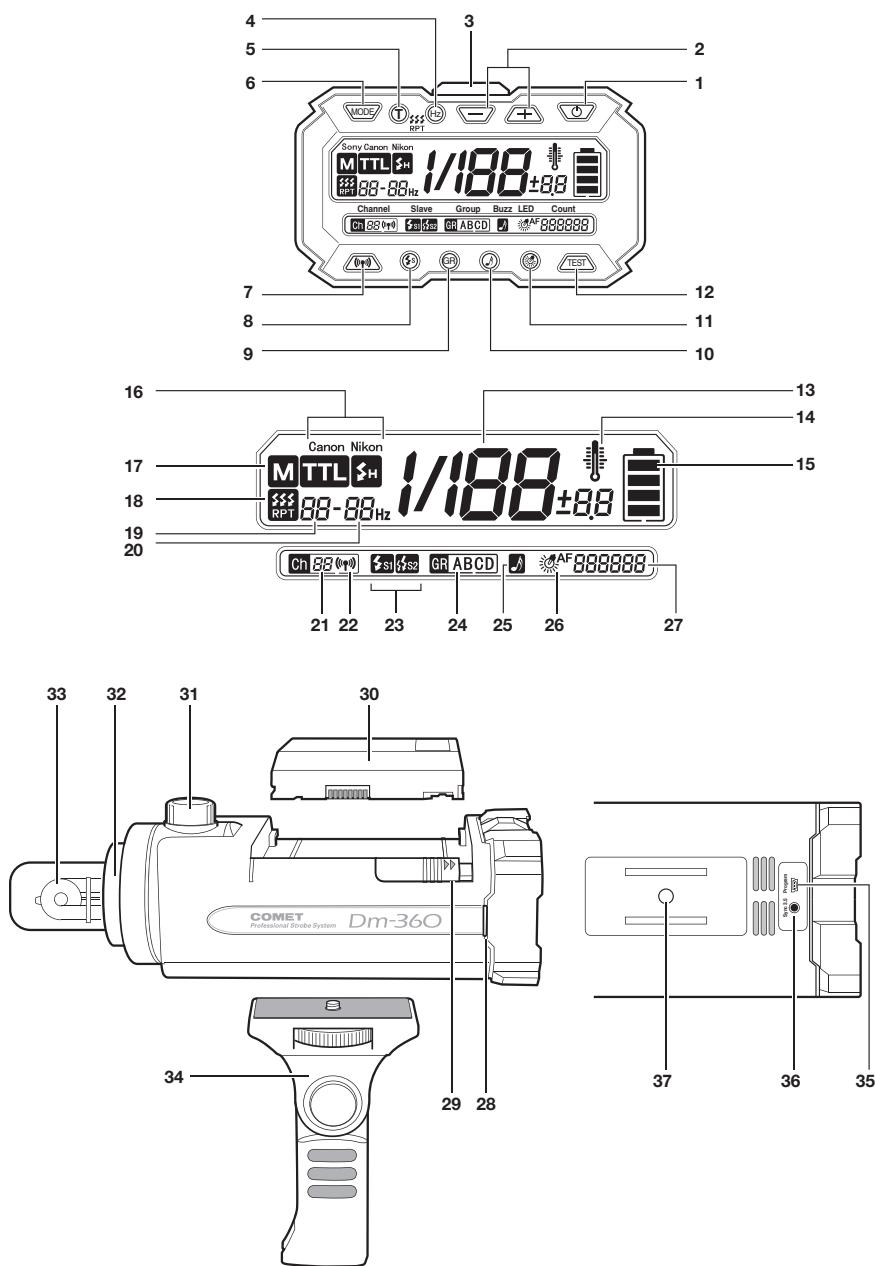
●赤外シンクロ装置(弊社製)の受信器は、室内の蛍光灯から離れた場所にセットしてください。

蛍光管から出る赤外線により、誤動作を起こすことがあります。

●複数台のストロボ電源部を赤外シンクロ装置(弊社製)で使用するときは、それぞれのストロボ電源部に受信器をセットしてください。このときはすべてのストロボ電源部のフォトセルスイッチを必ず「OFF」にしてください。

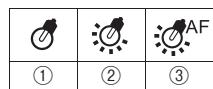
赤外シンクロ受信器を使用していてもフォトセルスイッチが「ON」のときは、同調発光しない電源部が出ることがあります。

3 各部の名称とはたらき



1	メインスイッチ	電源スイッチです。長押しするとONになります。もう一度長押しするとOFFになります。 使用後は必ずOFFにしてください。 ・本機は電源をONにした状態で80分間操作しないと、自動的に電源が切れます。(オートパワーオフ機能)
2	+スイッチ/-スイッチ	ストロボ出力を0.1EVステップで調光します。 光量を上げるときは+スイッチ、下げるときは-スイッチを押します。 光量のほかにチャンネルナンバー(Ch)やマルチ発光モードの発光回数(T)、発光周波数(Hz)を設定する際に使用します。
3	フォトセル受光部	フォトセル受光素子が内蔵されています。 受光部を塞がないようにしてください。
4	[Canon]高速シャッター モード切り替えスイッチ/マルチ発光モード-発光周波数スイッチ(Hz)	・発光モードが「マニュアルモード(M)」のとき、「マニュアル高速シャッターモード(M+H)」に切り替えます。 「TTLモード(TTL)」のとき、「TTL高速シャッターモード(TTL+H)」に切り替えます。 もう一度押すと高速シャッターモードを解除します。 ・「マルチ発光モード(RPT)」のとき、発光周波数(Hz)の数値が点滅します。 +/-スイッチで発光周波数を設定します。 設定が完了したらもう一度スイッチを押してください。
4	[Nikon]マルチ発光モード-発光周波数スイッチ(Hz)	・長押しすると発光モードを「マルチ発光モード(RPT)」に切り替えます。 ・「マルチ発光モード(RPT)」のとき、発光周波数(Hz)の数値が点滅します。 +/-スイッチで発光周波数を設定します。 設定が完了したらもう一度スイッチを押してください。
5	マルチ発光モード-発光回数設定スイッチ(T)	・長押しすると発光モードを「マルチ発光モード(RPT)」に切り替えます。 ・「マルチ発光モード(RPT)」のとき、発光回数(T)の数値が点滅します。 +/-スイッチで発光回数を設定します。 設定が完了したらもう一度スイッチを押してください。
6	モードスイッチ(MODE)	発光モードを「TTLモード(TTL)」と「マニュアル(M)」に切り替えます。 または、「TTL高速シャッターモード(TTL+H)」と「マニュアル高速シャッターモード(M+H)」に切り替えます。 2秒間の長押しで、各設定がリセットされ工場出荷時のモードになります。
7	チャンネルスイッチ	押すとストロボのチャンネルナンバーが点滅しチャンネルナンバー設定モードになります。 +/-スイッチで01～80Chに設定します。 設定が完了したらもう一度スイッチを押してください。
8	フォトセルスイッチ	発光モードが「マニュアル(M)」の場合、他のストロボ光を受けて同調発光させるとときに設定します。 フォトセルモードを「OFF」「同調発光(S1)」「同調発光 ブリ発光カット(S2)」に切り替えます。
9	グループスイッチ(GR)	本機をABCDいずれかのグループに設定することでDm-コントローラー(別売)から個々のグループを無線コントロールできます。 コメット無線シンクロ装置RS-発信器(別売)または、RS-コントローラー(別売)を使用する場合、2秒間長押しして、グループ設定を解除します。
10	サウンドスイッチ	ブザー音を「ON」または「OFF」に切り替えます。
11	モデリングランプスイッチ	モデリングランプモードを切り替えます。 「消灯」、「出力連動調光」、「100%点灯」、「AF-ON」

12	テスト発光スイッチ (TEST)	テスト発光をするときに押してください。
13	出力表示	ストロボ出力を表示します。
14	過熱警報表示	内部電子部品が所定温度以上になるとブザー音と共に点滅します。
15	バッテリーインジケーター	リチウムイオン電池Dm-360用の電池残量を表示します。
16	カメラ選択表示 (Canon/Nikon)	Dm-コントローラー(別売)を装着するカメラの種類に合わせます。
17	モード表示	発光モードを表示します。 • TTLモード(TTL) Dm-コントローラー(別売)を使用します。 カメラのシャッターが先幕シンクロのとき、適正ストロボ出力を計算し発光します。 • マニュアルモード(M) カメラのシャッターが先幕シンクロのとき、ご希望のストロボ出力を設定できます。 • TTL高速シャッターモード(TTL+H) Dm-コントローラー(別売)を使用します。 カメラのシャッタースピードが1/8000までの高速シャッターのとき、適正ストロボ出力を計算し発光します。 • マニュアル高速シャッターモード(M+H) Dm-コントローラー(別売)を使用します。 カメラのシャッタースピードが1/8000までの高速シャッターのとき、ご希望のストロボ出力を設定できます。
18	マルチ発光モード表示 (RPT)	マルチ発光モードのとき表示されます。
19	発光回数表示	マルチ発光モードのとき、発光回数(Times)を表示します。
20	発光周波数表示	マルチ発光モードのとき、発光周波数(1秒間の発光回数)(Hz)を表示します。
21	チャンネルナンバー表示 (Channel)	チャンネルナンバー 01 ~ 80Chを表示します。
22	無線シンクロ受信マーク	Dm-コントローラー(別売)からの無線シンクロ信号を受信したときに表示されます。
23	フォトセルモード表示 (Slave)	• S1モード メインフラッシュと同時に発光します。 • S2モード メインフラッシュの予備発光(プリ発光)を無視し、次の発光に同調します。
24	グループ表示(Group)	グループA~Dを表示します。
25	サウンドモード表示 (Buzz)	• 消灯 サウンド「OFF」 • 「♪」 サウンド「ON」
26	モデリングランプモード表示(LED)	• 消灯 モデリングランプ「OFF」 • ①調光マーク 出力連動調光 • ②100%マーク 100%点灯 • ③AF-ONマーク カメラのシャッターを半押しで点灯。シャッターを押してストロボ発光とともに消灯。



27	発光回数カウンター表示 (Count)	ストロボ発光回数を199,999まで表示します。 ストロボ充電中は消灯します。
28	ストラップ用フック	付属のストラップを通します。
29	電池ロック解除レバー	スライドすることで電池のロックが解除されます。
30	リチウムイオン電池 Dm-360用	Dm-360本体上部にセットします。 電池本体を電池の矢印の方向にスライドして、ロック機構が働くところまで、完全に押し込んでください。
31	リフレクター固定ノブ	Dmタイプアクセサリーをセットして固定ノブでロックします。
32	モデリングランプ	LEDタイプのモデリングランプです。
33	キセノン放電管	ストロボの発光管です。使用中、使用直後はかなりの高温になります。 絶対に手を触れないでください。
34	Dm-グリップ	Dm-360本体面のメスネジ(2分ネジ)に確実に固定してください。
35	機能拡張端子	ファームウェアアップデート用の端子です。 その他の用途に使用しないでください。
36	シンクロソケット	ホーンジャック(Φ 3.5)タイプのシンクロコードを接続します。
37	メスネジ(2分ネジ)	付属のDm-グリップや、小雲台Dm-360アダプター付き(別売)を取り付けます。

4 Dm-コントローラー(別売)

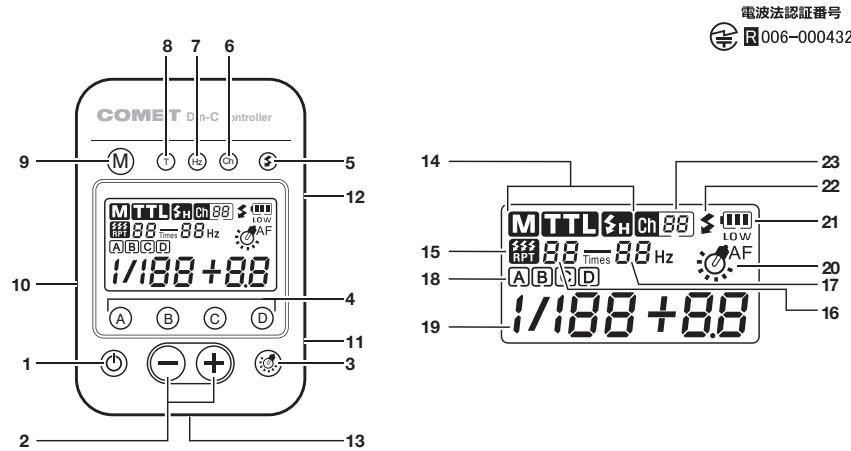
Dm-コントローラー(別売)をカメラに装着することで、Dm-360のワイヤレス操作が可能です。また、マニュアルモードのほかにマニュアル高速シャッターモード、TTLモード、TTL高速シャッターモード、マルチ発光モードなど多彩なモードが使用可能です。

【ご注意】

- マニュアル高速シャッターモード、TTLモード、TTL高速シャッターモード、マルチ発光モードはカメラの対応機種に制限があります。対応機種はDm-360付属のカメラリストシールをご参照ください。

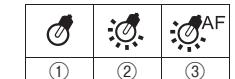


■ 各部の名称とはたらき



1 メインスイッチ	電源スイッチです。長押しするとコントローラー本体の電源がONになります。もう一度長押しするとOFFになります。使用後は必ずOFFにしてください。 • 電源ONの状態で押すとディスプレーが3秒間点灯します。 • Dm-コントローラーは電源をONにした状態で30分間操作しないと、自動的に電源が切れます。(オートパワーオフ機能)
2 +スイッチ/-スイッチ	ストロボ出力を0.1EVステップで調光します。 光量を上げるときは+スイッチ、下げるときは-スイッチを押します。 光量のほかにチャンネルナンバー(Ch)やマルチ発光モードの発光回数(T)、発光周波数(Hz)を設定する際に使用します。
3 モデリングランプスイッチ	モデリングランプモードを切り替えます。 「消灯」、「出力連動調光」、「100%点灯」、「AF-ON」
4 グループスイッチ(A/B/C/D)	ABCDいずれかのグループを選択することでDm-360をグループごとに無線コントロールできます。 長押しすることで、グループの灯体をOFFにします。 もう一度長押しするとONになります。
5 テスト発光スイッチ	テスト発光するときに押してください。 同じチャンネルナンバーのストロボが無線シンクロ発光します。
6 チャンネル設定スイッチ	押すとコントローラーのチャンネルナンバーが点滅しチャンネルナンバー設定モードになります。 +/−スイッチで01～80Chに設定します。 設定が完了したらもう一度スイッチを押してください。
7 [Canon] 高速シャッターモード切り換えスイッチ/マルチ発光モード-発光周波数スイッチ(Hz)	• 発光モードが「マニュアルモード(M)」のとき、「マニュアル高速シャッターモード(M+H)」に切り替えます。「TTLモード(TTL)」のとき、「TTL高速シャッターモード(TTL+H)」に切り替えます。 もう一度押すと高速シャッターモードを解除します。 • 「マルチ発光モード(RPT)」のとき、発光周波数(Hz)の数値が点滅します。+/−スイッチで発光周波数を設定します。 設定が完了したらもう一度スイッチを押してください。
7 [Nikon] マルチ発光モード-発光周波数スイッチ(Hz)	• 長押しすると発光モードを「マルチ発光モード(RPT)」に切り替えます。 • 「マルチ発光モード(RPT)」のとき、発光周波数(Hz)の数値が点滅します。+/−スイッチで発光周波数を設定します。 設定が完了したらもう一度スイッチを押してください。

8 マルチ発光モード-発光回数設定スイッチ(T)	• 長押しすると発光モードを「マルチ発光モード(RPT)」に切り替えます。 • 「マルチ発光モード(RPT)」のとき、発光回数(T)の数値が点滅します。+/−スイッチで発光回数を設定します。 設定が完了したらもう一度スイッチを押してください。
9 モードスイッチ(M)	発光モードを「TTLモード(TTL)」と「マニュアル(M)」に切り替えます。または、「TTL高速シャッターモード(TTL+H)」と「マニュアル高速シャッターモード(M+H)」に切り替えます。 2秒間の長押しで、各設定がリセットされ発光モードは「マニュアルモード」になります。
10 シンクロソケットφ2.5(INPUT)(側面)	シンクロターミナル内蔵のカメラと付属のシンクロコードで接続します。ホットシュー接点のあるカメラは使用しません。 発光モードはマニュアル(M)にセットしてください。
11 機能拡張端子(PROGRAM)(側面)	ファームウェアアップデート用の端子です。 その他の用途に使用しないでください。
12 電池収納部(底面)	単4形乾電池(1.5V)2本をセットします。 極性表示に従い、正しい向きにセットしてください。
13 ホットシュー(底面)	カメラのアクセサリーシューにしっかり差し込み、固定リングを矢印の方向に回して固定します。
14 モード表示	発光モードを表示します。 • TTLモード(TTL) カメラのシャッターが先幕シンクロのとき、適正ストロボ出力を計算し発光します。 • マニュアルモード(M) カメラのシャッターが先幕シンクロのとき、ご希望のストロボ出力を設定できます。 • TTL高速シャッターモード(TTL+H) カメラのシャッタースピードが1/8000までの高速シャッターのとき、適正ストロボ出力を計算し発光します。 • マニュアル高速シャッターモード(M+H) カメラのシャッタースピードが1/8000までの高速シャッターのとき、ご希望のストロボ出力を設定できます。
15 マルチ発光モード表示(RPT)	マルチ発光モードのとき表示されます。
16 発光回数表示(Times)	マルチ発光モードのとき、発光回数(Times)を表示します。
17 マルチ発光モード発光周波数表示(Hz)	マルチ発光モードのとき、発光周波数(1秒間の発光回数)(Hz)を表示します。
18 グループ表示(A/B/C/D)	グループスイッチで選択したグループを□枠で表示します。 グループスイッチを「OFF」にすると□枠が点滅します。
19 出力表示	ストロボ出力を表示します。 グループスイッチを「OFF」にすると「OF」が点滅表示します。
20 モデリングランプモード表示	• 消灯 モデリングランプ「OFF」 • ①調光マーク 出力連動調光 • ②100%マーク 100%点灯 • ③AF-ONマーク カメラのシャッターを半押しで点灯。シャッターを押してストロボ発光後に消灯。
21 バッテリーインジケーター	Dm-コントローラーの電池残量を表示します。 電池残量が少なくなると「Low」が表示されます。
22 無線シンクロ発信マーク	Dm-コントローラーから無線シンクロ信号を発信したときに表示されます。
23 チャンネルナンバー表示(Ch)	チャンネルナンバー 01～80Chを表示します。



■Dm-コントローラーの準備

1. コントローラー底面の電池フタを開けてアルカリ乾電池単4形(1.5V)2本をセットします。
電池収納部の極性表示に従い、正しい向きにセットしてください。
※充電式電池(1.2V)は使用できません。
※電池残量が少ないとDm-コントローラーからの操作到達距離が短くなったり、Dm-360の不発が起きます。このような場合は新しい電池に交換してください。
2. カメラにDm-コントローラーを装着しDm-コントローラーとカメラの電源をONにします。
※カメラにDm-コントローラーを装着する際は、それぞれの電源をOFFにしてください。

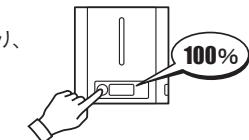
【ご注意】

- Dm-コントローラーをご使用になる場合は、操作・設定はDm-コントローラーにて行ってください。Dm-360本体を直接操作すると、コントローラーとDm-360の設定に違いが発生し、撮影に支障をきたす恐れがあります。
- Dm-コントローラーの動作距離は、見通しの良い場所で最大70m以内です。
Dm-コントローラーから複数のDm-360を操作する場合、極まれに受信できないストロボがでたり、到達距離が短くなるなどの影響がでることがあります。
Dm-コントローラーでDm-360を操作したときは、コントローラーからのワイヤレス操作がストロボに反映(受信)されていることをご確認ください。
- 無線周波数帯域での干渉や、壁、コンクリート、水辺、使用環境の特性により、操作距離が短くなることがあります。また、不発光、同調不良、誤動作が起きる場合もあります。
- Dm-コントローラーは無線LANと同様に2.4GHz帯の周波数を使用しています。
無線LAN環境下では、電波の混信により受信不良を起こす場合があります。
その場合、チャンネルを変更して同調テストをおこなってから、ご使用ください。
(使用周波数：2.402GHz～2.481GHz)
- Dm-コントローラーをカメラに装着、取り外しをする際は必ず、コントローラーとカメラ本体のメインスイッチを「OFF」にしてください。
- 撮影の際はカメラのシャッター・ボタンを半押しして、ピント合わせが確実に完了してから、シャッター・ボタンを全押ししてください。
不発光、同調不良の原因となります。
- 使用するカメラのファームウェアは最新のバージョンをご使用ください。

5 リチウムイオン電池Dm-360用

■リチウムイオン電池Dm-360用の充電状態のチェック

電池をDm-360本体にセットする前に、リチウムイオン電池の充電状態をチェックしてください。
リチウムイオン電池の充電状態をチェックするには、電池本体のBATTERY CHECKスイッチを押します。
電池の残量が充分でない場合、Dm-360の充電時間が遅くなったり、撮影時の操作に不具合が生じる恐れがあります。

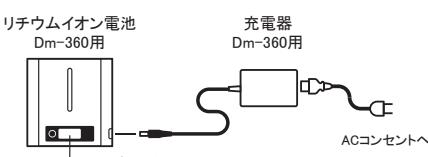


【ご注意】

- 電池のカド部に鋭角な箇所があります。強く握るとケガをする恐れがあります。
電池取扱いの際は、十分ご注意ください。

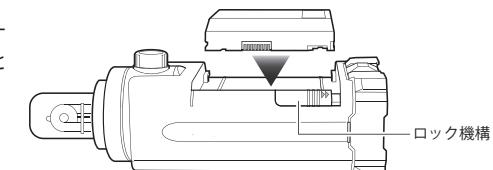
■リチウムイオン電池Dm-360用の充電

充電器Dm-360用をリチウムイオン電池Dm-360用に接続し、インジケーターが99%から100%になるまで充電してください。
完全に放電した状態の電池を充電するのに、約2時間30分かかります。



■リチウムイオン電池Dm-360用の装着

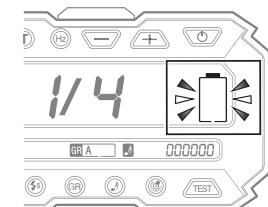
電池をDm-360上部の電池挿入部に装着し、ロック機構が働くところまで、完全に押し込んでください。



- 本機は、フル発光で250回撮影することができます。(電池性能は、使用期間や使用回数に応じて低下します。)

- 長時間Dm-360をご使用になる場合は、予備のリチウムイオン電池Dm-360用の御購入をおすすめします。

- Dm-360を使用中に、ディスプレーの電池マークが点滅し、ブザー音が鳴る場合は、すみやかに充電済み電池に交換するか、Dm-360の電源をOFFにして電池を充電してください。



【警告】

- 発熱・発火・感電・傷害の恐れがあります。
- リチウムイオン電池Dm-360用を充電する場合は、必ず専用充電器(充電器Dm-360用)を使用してください。専用充電器以外の接続・充電は絶対にしないでください。
- 電池の着脱は、Dm-360本体のメインスイッチをOFFにしてからおこなってください。
- Dm-360本体に電池を装着したまま充電する場合は、Dm-360本体のメインスイッチをOFFにして、絶対にDm-360は使用しないでください。
- 分解や改造はしないでください。
- 水に濡らさないでください。
- 火中への投入や過熱はさせないでください。
- 他の用途に転用しないでください。
- 落下せたり、強い衝撃を与えないでください。
- 電池の金属端子間をショートさせないでください。ネックレス、ヘアピンなど金属製のものと一緒に持ち運んだり、保存しないでください。
- ご不要になった電池は電極部分にテープを貼り付けて絶縁してください。

■リチウムイオン電池 Dm-360 用の取り扱いについて

1. 使用温度について

- 使用温度は、0°C～40°Cの範囲内で使用してください。
0°C以下や40°C以上では電池容量が少なくなり所定の発光回数が得られなかったり、性能劣化の原因となる場合がありますのでご注意ください。
※ Dm-360を低温環境でご使用になる場合は、事前にテストをして光量測定をしてください。
低温時の場合、所定の性能を發揮しない恐れがありますのでご注意ください。

2. 寒冷地での使用について

- 電池が0°C前後まで冷えると、電池の充電状態に関係なく、ストロボの充電ができないことがあります。このような場合には電池を室温(20°C～25°C)になるように暖めてください。(カイロなど)
- 電池を暖めるときは、直火にあてたり温湯をかけたりしないでください。
感電や故障の原因になります。

3. 充電について

- 充電時の周囲温度は0°C～40°Cの範囲内で行ってください。
特に効率がよいのは、10°C～30°Cです。
- 0°C以下、あるいは40°C以上では充電効率が低下し、充分充電されないばかりでなく性能劣化や液漏れの原因になることがあります。

4. 保存について

- 保存温度は0°C～30°Cの範囲で、乾燥した場所を選んでください。
- 保存期間が長期の場合、満充電状態ではなく電池残量を電池のインジケータが70%程度の充電状態で涼しい場所で保管してください。

5. 長期間の放置について

電池を長期間放置しておくと自然放電します。この場合、使用する直前に再度充電をおこなってください。

6. リチウムイオン電池のリサイクルについて

劣化し不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店（販売店もしくは弊社）へお持ちください。不要になった電池は金属端子部分にテープを貼り付けて絶縁してください。



■リチウムイオン電池 Dm-360 用の輸送に関するご注意

●航空機輸送の場合

ご利用になる航空会社のHP及び案内窓口へ直接お問い合わせください。航空会社の判断による持ち込み不可の場合でも当社は損害負担をいたしかねます。

○モノブロックストロボDm-360に使用しているリチウムイオン電池Dm-360用のワット時定格量は、100Wh以下です。

(リチウムイオン電池Dm-360用のワット時定格量は、2500mAh×14.4V=36Whになります。)

《Dm-360本体に電池を装着した場合》

Dm-360本体に電池を装着した状態での客室内持ち込みと、受託手荷物は認められています。

《電池単体の場合》

電池単体での客室内持ち込みは認められていますが、
電池単体を客室内に持ち込む場合、購入時的小売容器に収納するか、それぞれの電池を個別にプラスチックの袋もしくは保護パウチに収納してください。
電池単体の受託手荷物は禁止されています。

○破損または不具合のあるリチウムイオン電池は、航空機で輸送することはできません。

●海上・陸上輸送の場合

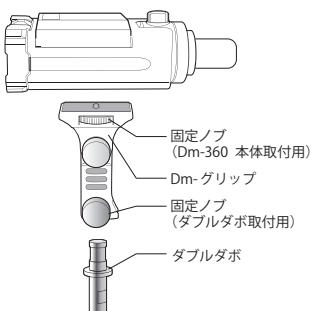
・リチウムイオン電池は危険物の扱いとなります。各輸送手段での輸送規則に従ってください。

6 Dm- グリップの取り付け

付属のDm- グリップをDm-360底面のメスネジ（2分ネジ）に取り付けます。

Dm- グリップ上部の固定ノブを回して、確実に固定してください。

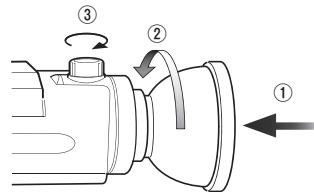
スタンドに設置する場合は、Dm- グリップ底面のメスダボに付属のダブルダボを取り付けます。



7 リフレクターの取り付け

■リフレクターの取り付け

付属のDm-アンブレラリフレクター120 φをDm-360の発光部に奥まで完全に押し込み、時計回りに回します。リフレクター固定ノブを回して、固定してください。



■リフレクターの取り外し

リフレクターを取り外す場合は、リフレクター固定ノブを緩めて、リフレクターを反時計回りに回して手前に引き抜いてください。

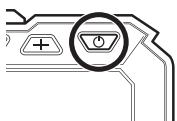
8 メインスイッチのON/OFF

■メインスイッチを長押しすると、電源がONになります。

もう一度長押しすると、OFFになります。

■オートパワーオフ機能

Dm-360は電源をONにした状態で80分間操作しないと、自動的に電源が切れます。

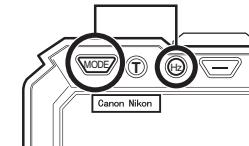


9 カメラの選択

Dm-コントローラーをご使用の場合、使用するカメラ（キャノン・ニコン）を設定します。ご使用のカメラと、Dm-360本体の設定が一致しているか確認してください。

■カメラの選択方法

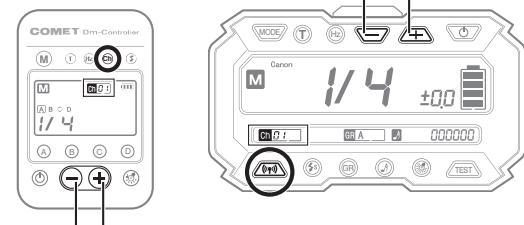
モードスイッチ（MODE）を押しながら発光周波数スイッチ（Hz）を3秒間押すと、キャノンとニコンが交互に切り替わります。使用するカメラを選択してください。



10 チャンネルの設定

Dm-360には、無線受信器が内蔵されています。Dm-コントローラーで、本機を無線コントロールできます。※Dm-コントローラーは別売オプションです。

Dm-360とDm-コントローラーのチャンネルを合わせてください。



■Dm-360のチャンネルの変更

1. チャンネルスイッチを押すと、チャンネルナンバーが点滅します。
2. 1-80までの希望のチャンネルを、+/-スイッチを押して選択します。
3. 設定が完了したらもう一度チャンネルスイッチを押してください。

■Dm-コントローラーのチャンネルの変更

1. チャンネルスイッチを押すと、チャンネルナンバーが点滅します。
2. Dm-360と同じチャンネルを、+/-スイッチを押して設定します。
3. 設定が完了したらもう一度チャンネルスイッチを押してください。

■RS-発信器／RS-コントローラーとの互換性

本機は、RS-発信器／RS-コントローラーとの互換性があります。

☞ 詳細は26ページ 21. RS-発信器／RS-コントローラーを御参照ください。

11 グループ設定

複数のDm-360を4つ(ABCD)のグループに設定することで、グループごとに無線コントロールすることができます。(各グループ1灯まで)

※この機能は、Dm-コントローラー(別売)を使用することで利用できます。



【ご注意】

●Dm-コントローラーの動作距離は、見通しの良い場所で最大70m以内です。

●Dm-コントローラーから複数のDm-360を操作する場合、極まれに受信できないストロボがでたり、到達距離が短くなるなどの影響があります。

Dm-コントローラーでDm-360を操作したときは、コントローラーからのワイヤレス操作がストロボに反映(受信)されていることをご確認ください。

■グループの設定方法

1. Dm-360と、Dm-コントローラーと同じチャンネルに設定してください。
2. Dm-360のグループスイッチ(GR)を押してグループ(ABCD)を設定してください。
3. 無線コントロールするグループを、Dm-コントローラーのグループスイッチで選択してください。
4. Dm-コントローラーで希望するモードと、ストロボ出力を選択してください。
5. カメラのシャッターを押してください。同じチャンネルのDm-360が同調発光します。

☞ Dm-コントローラーのグループスイッチを長押しすることで、グループの灯体をOFFにします。このとき、Dm-コントローラーとDm-360のディスプレーに「OF」と表示されます。

もう一度長押しするとONになり、ストロボ出力が表示されます。

【ご注意】

●Dm-コントローラーでマルチ発光モード(RPT)に設定した場合、または、モデリングランプモードを設定した場合、同じチャンネルのDm-360が同時にコントロールされ、個々のグループ設定はできません。

●Dm-コントローラーでDm-360を各灯OFF操作をしてもストロボ本体のメイン電源は「OFF」になりません。ストロボ電源部を長時間ご使用にならないときは必ず、ストロボ本体のメインスイッチを「OFF」にしてください。

12 TTLモード/TTL高速シャッターモード

TTLモード、TTL高速シャッターモードは、カメラのシャッターを押すだけで、カメラが適正ストロボ出力を自動で計算し、発光します。

※この機能は、Dm-コントローラー(別売)を使用することで利用できます。

※TTLモード、TTL高速シャッターモード対応機種は付属のカメラリストシールをご参照ください。

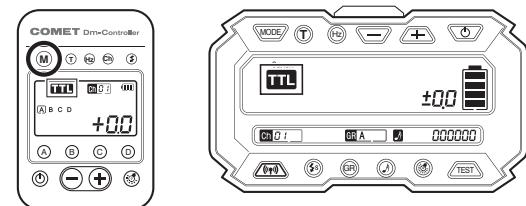
■TTLモード

●Dm-360本体の設定、操作手順

1. Dm-360本体のメインスイッチを「ON」にします。
2. チャンネルを設定します。(1 ~ 80Ch)
3. Dm-360本体のグループを設定します。(A ~ D)

●Dm-コントローラーの設定、操作手順

1. カメラにDm-コントローラーを装着しDm-コントローラーとカメラのメインスイッチをONにします。
2. Dm-コントローラーのチャンネルをDm-360本体と同じ番号に設定します。
3. Dm-コントローラーのグループスイッチ(A ~ D)で操作するDm-360を選択します。
4. Dm-コントローラーのモードスイッチ(M)を押してTTLモードに切り替えます。
Dm-コントローラーとDm-360のディスプレーに「TTL」が表示されます。
5. カメラのシャッターを押してシンクロ発光テストをします。
発光ごとに、Dm-360 TTL本体に発光したストロボ出力が表示されます。
6. 撮影された画像を確認の上、ストロボ出力補正をします。
+/-スイッチで-3.0EVから+3.0EVまで0.1EVステップで調整します。
7. Mスイッチを押すと、マニュアルモード(M)に切り替わり、一度発光させたTTLでのストロボ出力が表示され、その後、同じストロボ出力で続けて撮影することができます。



■TTL高速シャッターモード

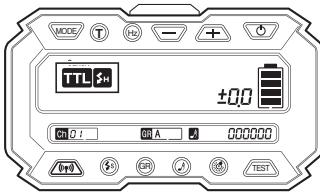
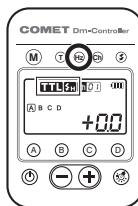
TTL高速シャッターモードでは、1/8000までの高速シンクロで本機を発光させることができます。
TTL高速シャッターモードの調光範囲は1/1~1/8です。

●Canon製カメラの場合

1. Dm-コントローラーの発光周波数スイッチ(Hz)を押してTTL高速シャッターモードに切り替えます。

Dm-コントローラーとDm-360のディスプレーに「TTL」と「H」が表示されます。

2. カメラを高速シャッタースピードに設定し、テスト撮影をしてください。解除するときは、もう一度Dm-コントローラーの発光周波数スイッチ(Hz)を押します。



最初にカメラ本体の「シンクロ設定」を「先幕シンクロ」から「ハイスピード」に変更するとDm-コントローラーの操作ができなくなります。この場合、Dm-コントローラーのHzスイッチを押して高速シャッターモードを解除してから上記1、2の手順で設定しなおしてください。

●Nikon製カメラの場合

1. カメラのフラッシュ撮影同調速度をオートFPにしてください。
2. カメラのシャッタースピードを上げると連動して、Dm-コントローラーとDm-360がTTL高速シャッターモードに切り換わります。
Dm-コントローラーとDm-360のディスプレーに「TTL」と「H」が表示されます。

カメラ本体のシャッタースピード表示が消えると、Dm-コントローラーとDm-360本体の高速シャッターモード「H」が消えます。カメラのシャッターを半押しすることで、カメラ本体にシャッタースピードが表示され、Dm-コントローラーとDm-360本体は高速シャッターモードに復帰します。

13 マニュアルモード/マニュアル高速シャッターモード

■マニュアルモード

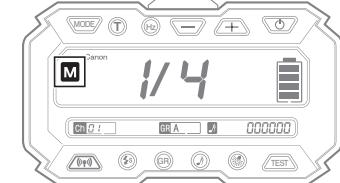
マニュアルモードはカメラのシャッターが先幕シンクロのとき、ストロボ出力を任意の出力に調光して撮影することができます。

●Dm-360本体の設定、操作手順

1. Dm-360のメインスイッチを「ON」にします。
2. Dm-360のモードスイッチ(MODE)を押してマニュアルモード(M)に設定します。
3. Dm-360の+/−スイッチを押して任意のストロボ出力に調光してください。
1/1(フル出力)から1/128まで0.1EVステップで調光します。
4. テスト発光スイッチ(TEST)を押して、正常に発光することを確認してください。
5. カメラとのシンクロを確認してください。

付属のシンクロコードでカメラと接続し、カメラでの同調発光テストをします。

マニュアルモードはDm-コントローラーからも、無線コントロールできます。Dm-360とDm-コントローラーのチャンネルを合わせ、コントローラーでストロボ出力を設定します。



■マニュアル高速シャッターモード

マニュアル高速シャッターモードはカメラのシャッタースピードが1/8000までの高速シャッターのとき、ストロボ出力を任意の出力に調光して撮影することができます。
※この機能は、Dm-コントローラー(別売)を使用することで利用できます。
※マニュアル高速シャッターモード対応機種は付属のカメラリストシールをご参照ください。

●Dm-360本体の設定、操作手順

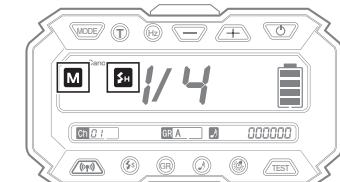
1. Dm-360本体のメインスイッチを「ON」にします。
2. チャンネルを設定します。(1～80Ch)
3. Dm-360本体のグループを設定します。(A～D)

●Dm-コントローラーの設定、操作手順

1. カメラにDm-コントローラーを装着しDm-コントローラーとカメラのメインスイッチをONにします。
2. Dm-コントローラーのチャンネルをDm-360本体と同じ番号に設定します。
3. Dm-コントローラーのグループスイッチ(A～D)で操作するDm-360を選択します。
4. Dm-コントローラーのモードスイッチ(M)を押してマニュアルモードに切り換えます。
Dm-コントローラーとDm-360のディスプレーに「M」「H」が表示されます。

(Canon製カメラの場合)

- ①Dm-コントローラーの発光周波数スイッチ(Hz)を押してマニュアル高速シャッターモードに切り換えます。
Dm-コントローラーとDm-360のディスプレーに「M」「H」が表示されます。
- ②カメラを高速シャッタースピードに設定してください。



☞ 最初にカメラ本体の「シンクロ設定」を「先幕シンクロ」から「ハイスピード」に変更するとDm-コントローラーの操作ができなくなります。
この場合、Dm-コントローラーのHzスイッチを押して高速シャッターモードを解除してから上記①、②の手順で設定しなおしてください。

[Nikon製カメラの場合]

- ①カメラのフラッシュ撮影同調速度をオートFPにしてください。
- ②カメラのシャッタースピードを上げると連動して、Dm-コントローラーとDm-360がマニュアル高速シャッターモードに切り換わります。
Dm-コントローラーとDm-360のディスプレーに「M」「H」が表示されます。

☞ カメラ本体のシャッタースピード表示が消えると、Dm-コントローラーとDm-360本体の高速シャッターモード「H」が消えます。
カメラのシャッターを半押しすることで、カメラ本体にシャッタースピードが表示され、Dm-コントローラーとDm-360本体は高速シャッターモードに復帰します。

5. ストロボ出力を調光します。
+/−スイッチを押して任意のストロボ出力に調光してください。
マニュアル高速シャッターモードの調光範囲は1/1～1/8です。
6. テスト撮影をしてください。

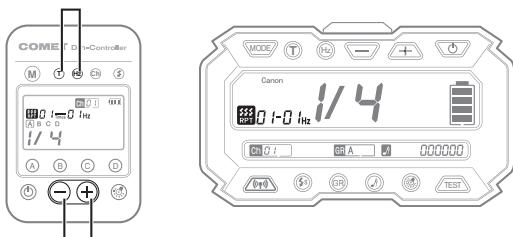
14 マルチ発光モード

■ カメラのスローシャッターとDm-360のマルチ発光モード(RPT)を組み合わせて撮影すると、動いている被写体を一つの画像に多重撮影することができます。

*この機能は、Dm-コントローラー(別売)を使用することで利用できます。
※マルチ発光モード対応機種は付属のカメラリストシールをご参照ください。

● Dm-360本体の設定、操作手順

1. Dm-360本体のメインスイッチを「ON」にします。
2. チャンネルを設定します。
(1～80Ch)



● Dm-コントローラーの設定、操作手順

1. カメラにDm-コントローラーを装着しDm-コントローラーとカメラの電源をONにします。
2. Dm-コントローラーのチャンネルをDm-360本体と同じ番号に設定します。

3. Dm-コントローラーの発光回数スイッチ(T)を長押ししてRPTモードに切り替えます。
Dm-コントローラーとDm-360のディスプレーに「RPT」が表示され、ストロボ出力が1/128になります。(Nikon用は発光周波数スイッチ(Hz)を長押ししてもRPTモードに切り換わります。)
4. 発光回数(T)、発光周波数(Hz)、ストロボ出力を設定します。最大連続発光回数については、下記の表を参照してください。

ストロボ出力 \ Hz	1	2	3	4	5	6	7
1/4	30	2	2	2	2	2	2
1/8	50	4	2	2	2	2	2
1/16	70	70	7	4	3	3	3
1/32	99	99	99	16	8	6	5
1/64	99	99	99	99	99	99	99
1/128	99	99	99	99	99	99	99

ストロボ出力 \ Hz	8	9	10	11	12-15	16-19	20-99
1/4	1	1	1	1	1	1	1
1/8	2	2	2	2	2	2	2
1/16	2	2	2	2	2	2	2
1/32	5	4	4	4	3	3	3
1/64	15	10	6	5	5	5	5
1/128	99	99	99	99	99	36	20

● 発光回数(T)の設定

Dm-コントローラーの発光回数スイッチ(T)を押すとディスプレーのTimesの数値が点滅します。発光回数を+/−スイッチで設定します。
設定が完了したらもう一度発光回数スイッチ(T)を押してください。

● 発光周波数(Hz)の設定

Dm-コントローラーの発光周波数スイッチ(Hz)を押すとディスプレーのHzの数値が点滅します。
1秒間の発光回数を+/−スイッチで設定します。
設定が完了したらもう一度、発光周波数スイッチ(Hz)を押してください。

● ストロボ出力の設定

+/−スイッチを押して任意のストロボ出力に調光してください。

7. カメラのシャッタースピードを設定します。

シャッタースピードは下記の計算式で求めます。

$$\text{発光回数}(T) \div \text{発光周波数}(Hz) = \text{シャッタースピード}$$

8. カメラのシャッターを押して同調発光テストをします。

【ご注意】

- Dm-コントローラーでマルチ発光モード(RPT)に設定した場合、同じチャンネルのDm-360がマルチ発光モードに切り換わり、同時にコントロールされます。

15 フォトセル

■ 外部メインフラッシュの発光と同時に、Dm-360本体を発光させることができます。

フォトセルスイッチを押して「OFF」「同調発光(S1)」「同調発光 プリ発光カット(S2)」に切り替えます。

● 同調発光(S1)モード

他のストロボ光を受けて同調発光します。

● 同調発光 プリ発光カット(S2)モード

1回目のプリ発光は無視し、2回目のメイン発光に同調発光します。



フォトセル受光部はストロボ本体上部のスレーブセンサーキャップに内蔵されています。

実際の撮影前に、必ずカメラとの同調発光テストを行ってください。

【ご注意】

● 室内照明に蛍光灯を使用しているときは、フォトセル受光部を50cm以上離してセットしてください。蛍光灯の光の影響により、不発光や誤発光することがあります。また、フォトセル受光部周辺に直射日光など強い光が当たると作動しないことがあります。

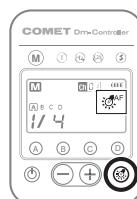
● 同調発光させないときは「OFF」にしてご使用ください。

● 赤外シンクロ装置を使うときは、必ず各本体に1台ずつ赤外シンクロ受信器をセットして、フォトセルスイッチを「OFF」にしてください。フォトセルスイッチを「ON」にすると、発光しても同調発光しないものになります。

16 モデリングランプ

モデリングランプモードを「消灯」「出力運動調光」「100%点灯」または「AF-ON」に設定します。

Dm-360または、Dm-コントローラーのモデリングランプスイッチで設定します。



モデリングランプモードは右表をご参照のうえ、発光モードに対応した設定にしてください。×印のモードに設定しても正しく動作しません。

モデリングランプモード 発光モード	OFF				
TTL	○	×	○	○	○
M	○	○	○	○	○
TTL+H	○	×	○	○	○
M+H	○	○	○	○	○
RPT	○	×	○	×	

■ OFF(表示は消灯します)

モデリングランプを消灯します。

■ 出力運動調光

モデリングランプはストロボ出力1/1のとき100%の明るさとしてストロボ出力に連動して調光します。

● 本機の仕様により、モデリングランプモードを「出力運動調光」に設定した場合、ストロボ出力を1/1(フル)にしたときのモデリングランプの明るさは、モデリングランプモード「100%点灯」よりも暗くなります。

■ 100%点灯

ストロボ出力に関係なく、モデリングランプが100%の明るさで点灯します。

■ AF-ON

カメラのシャッターを半押しすると点灯します。ストロボ発光後消灯します。

この機能は、モデリングランプの光でオートフォーカスができるため、暗い環境で撮影する際に適しています。

また、バッテリーの消耗を抑えるためにAF-ONモードが適しています。

● AF-ONの動作について

[Canon製カメラの場合]

カメラ本体のAF機能に関連するスイッチ操作(AF-ONなど)、またはそれ以外のスイッチの操作(機種により異なります)により、Dm-360のモデリングランプが点灯します。

[Nikon製カメラの場合]

カメラ本体にシャッタースピードが表示されている間はモデリングランプが点灯します。

17 サウンド

■サウンドスイッチを押すごとにブザー音を「ON」または「OFF」に切り替えます。

サウンド「ON」でディスプレーに↑が表示されます。

(操作音・充電完了音・過熱警報音・電池残量警報音)

●警報音は、サウンドを「OFF」にしても鳴ります。

●充電完了音は調光を下げて充電時間が短いときは、鳴らない場合があります



18 出荷時設定

■Dm-360の出荷時設定への戻し方

Dm-360のモードスイッチ(MODE)を2秒押すと、出荷時の設定に戻ります。

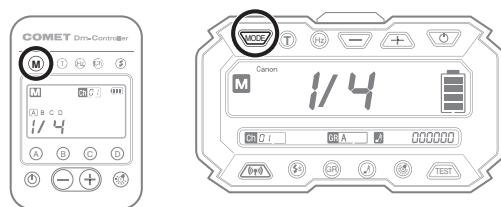
(マニュアルモード(出力1/4)・チャンネル1・グループA・サウンドON・LEDモデリングOFF)

■Dm-コントローラーの出荷時設定への戻し方

Dm-コントローラーのモードスイッチ(M)を2秒押すと、コントローラーと、コントローラーと同じチャネルに設定したDm-360がすべて、出荷時設定に戻ります。

(マニュアルモード(出力1/4)・チャンネル1・グループA・LEDモデリングOFF)

●万が一、戻らない場合は、一度電池を外して、再度取り付けてください。



19 アンブレラの取り付け

■アンブレラ シャフト径φ8mm(別売)を取り付けます。

付属のDm-アンブレラリフレクター120φのアンブレラ取り付け穴のフタを、ペンチなどの工具で取り除いてください。

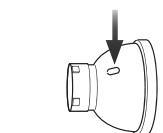
【ご注意】アンブレラ取り付け穴やフタのフチで手を切らないよう十分ご注意ください。

リフレクターをDm-360に取り付け、リフレクター固定ノブで固定します。

☞ 詳細は16ページ リフレクターの取り付けをご参考ください。

このとき、リフレクターのアンブレラ取り付け穴が、Dm-グリップと同じ角度になるようにセットしてください。

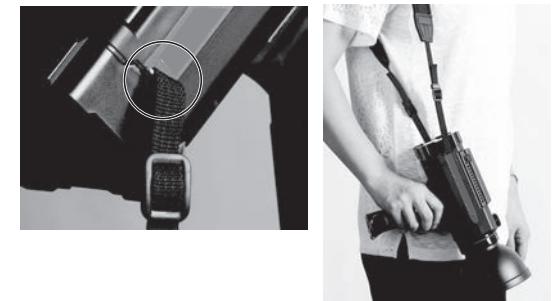
写真説明のように、アンブレラのポールをリフレクターとDm-グリップのアンブレラ取り付け穴に通してください。



20 ストラップの取り付け

■Dm-360本体側面のストラップ用フックに付属のストラップを通します。

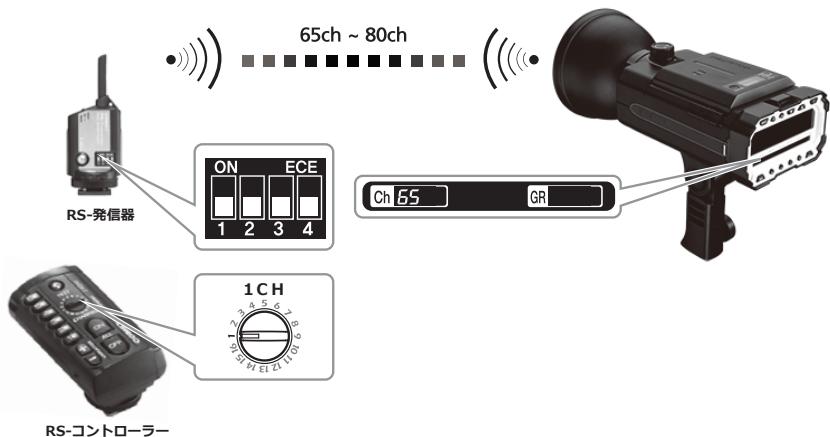
屋外撮影の際に便利です。



21 RS-発信器／RS-コントローラー

■弊社のRS-発信器(別売)または、RS-コントローラー(別売)でDm-360を無線シンクロ発光することができます。

※Dm-360の発光モードはマニュアルモードのみ使用可能です。



1. カメラにRS-発信器または、RS-コントローラーを装着し、発信器とカメラの電源をONにします。

2. Dm-360の発光モードスイッチを押してマニュアルモードに設定します。

3. Dm-360のグループスイッチ(GR)を3秒押して、グループ表示を消します。



23 保証とアフターサービス

4.Dm-360のチャンネルナンバー 65チャンネル～80チャンネルと、RS-発信器/RS-コントローラーのチャンネル互換チャートを一致させます。

5.カメラのシャッタースイッチを押して、カメラでのシンクロ発光テストをしてください。

●無線シンクロ装置とのチャンネル対応表

チャンネルナンバー Dm-360	CH 65	CH 66	CH 67	CH 68
チャンネルナンバー RS-コントローラー	1CH	2CH	3CH	4CH
RS-発信器 (スイッチ ポジション)				
ON ECE	ON ECE	ON ECE	ON ECE	ON ECE
T 2 3 4	T 2 3 4	T 2 3 4	T 2 3 4	T 2 3 4
CH 69	CH 70	CH 71	CH 72	CH 73
5CH	6CH	7CH	8CH	9CH
ON ECE	ON ECE	ON ECE	ON ECE	ON ECE
T 2 3 4	T 2 3 4	T 2 3 4	T 2 3 4	T 2 3 4
CH 74	CH 75	CH 76	CH 77	CH 78
10CH	11CH	12CH	13CH	14CH
ON ECE	ON ECE	ON ECE	ON ECE	ON ECE
T 2 3 4	T 2 3 4	T 2 3 4	T 2 3 4	T 2 3 4
CH 79	CH 80	15CH	16CH	
ON ECE	ON ECE	ON ECE	ON ECE	
T 2 3 4	T 2 3 4	T 2 3 4	T 2 3 4	

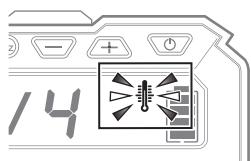
【お願い】

- 本番撮影をされる前にシンクロテストを行うことをお勧めします。
- フォーカルプレーンシャッターのカメラを使用のときは、シャッタースピードを1/60秒で使用してください。
- フォーカルプレーンシャッターの後幕シンクロには発光してもシンクロ(同調)しません。

22 過熱警報

長時間の連続発光などにより内部の電子部品が所定の温度以上になった場合は、過熱警報表示が点滅し、ブザー音で知らせます。このときは、直ちに使用を中止してください。

- サウンドスイッチが「OFF」の場合、過熱警報作動時にサウンドが「ON」に切り替わります。ブザー音はサウンドスイッチを「OFF」にすることで止まります。
- 内部温度が下がるまで過熱警報表示は点滅します。



■保証書と保証期間

添付された保証書に「販売店名・ご購入日」など、所定事項の記載もれがないかをご確認のうえ大切に保存してください。なお、保証期間はご購入日から一年間です。

本製品に、純正部品・純正アクセサリー以外のものを使用することによって生じた故障・事故、および本取扱説明書で明記した注意・禁止された事項をお守りにならざりに生じた故障・事故については一切の責任を負いかねます。

また、消耗品類は保証の対象となりません。詳しくは保証書の保証規定をご参照ください。

■保証期間終了後の修理

保証期間後でもご要望により有償で修理いたします。引き続き安心してご使用いただけます。

■アフターサービス

すべてのコメット製品は、厳重に調整・検査して出荷されていますが、万一故障になったときはご購入店または弊社営業所へご連絡ください。

■修理・点検へお出しになる際のご注意

修理・点検にお出しになる際は、ご使用中の電池、コントローラー、シンクロコードなどをセットにしてご依頼ください。迅速なアフターサービスをさせていただきます。

保証期間中のものは必ず保証書を添付してください。保証期間後のものは保証書に記載されている製品名・型式・ご購入年月日をお知らせください。

また、修理にお出しになる前に電池が正しくセットされているかをお調べください。

■修理・点検後のご注意

修理伝票は修理完了品に添付しています。

修理内容が明記されておりますので、修理品をお受け取りになる際に確認してください。

また、修理伝票は次回の修理に必要となることがありますので大切に保存してください。

■製品情報やお問い合わせについて

下記のホームページにて、サポート情報や改訂版取扱説明書を掲載しています。

<http://www.comet-net.co.jp/>

24 仕様

品名	Dm-360TTL
型式	DM-360TTL
電池	リチウムイオン電池 Dm-360用(14.4V 2500mAh) (ワット時定格量 : 36Wh)
	専用充電器:充電器 Dm-360用(充電時間:約2時間30分)
オートパワーオフ	有り(無操作80分間で作動)
発光回数	約250回(出力FULL 電池100%充電時)
最大出力	360Ws
ストロボ調光方式	シリーズカット方式
ストロボ調光範囲	マニュアルモード(M) : FULL ~ 1/128 1/10EVステップ マニュアル高速シャッターモード(M+H) : FULL ~ 1/8 1/10EVステップ
出力表示	液晶によるデジタル表示 (1/1 ~ 1/128)
発光回数表示(Count)	199,999まで表示
電池残量表示	4段階表示と電池表示の点滅
キセノンランプ	ヘリカル管
モデリングランプ	LED 7W
充電時間	2.2秒 (出力FULL 電池100%充電時)
閃光時間	1/700 (出力FULL マニュアルモード)
対応カメラ機能	Canon E-TTL または Nikon i-TTL ※対応機種に制約があります。 対応確認済み機種については付属のカメラリストシールをご覧ください。
フラッシュモード	TTLモード / マニュアルモード(M) / TTL高速シャッターモード(TTL+H) / マニュアル高速シャッターモード(M+H) / マルチ発光モード(RPT)
フラッシュ露出補正	フラッシュモード TTLまたはTTL高速シャッターモード: ±3.0EV 1/10EVステップ
マルチフラッシュ(RPT)	発光回数(T) 1 ~ 99回 発光周波数(Hz) 1 ~ 99Hz
モデリングモード	消灯 / 出力連動調光 / 100%点灯 / AF-ON
サウンドモード	ON/OFF
充電完了表示	発光回数表示(Count)が点灯(充電中は消灯)
シンクロソケット	ホーンジャック(3.5 φ)
シンクロ電圧	DC 3V
対応無線シンクロ装置	Dm-コントローラー (RS-発信器 / RS-Controller) ※1 ※1…マニュアルモードによる無線シンクロのみ対応
リモコン受信機能	使用周波数 2.402GHz ~ 2.481GHz
チャンネル数	80チャンネル ※2
フラッシュグループ	4グループ (A/B/C/D) ※2 (各グループ1灯まで) ※2…Dm-コントローラーのみ対応
フォトセル	内蔵 同調発光(S1) / 同調発光(S2) プリ発光カット / OFF
過熱警報	過熱表示点滅とブザー音
機能拡張端子	有り
適合リフレクター	Dmタイプ
寸法	201(w) × 80(h) × 108(d)mm
重量	1.2kg(本体+Dmグリップ) (電池重量250g含まず)

品名	Dm- コントローラー Nikon用/Canon用
型式	DM-N-CO/DM-C-CO
使用周波数	2.402GHz ~ 2.481GHz
チャンネル数	80 チャンネル
フラッシュグループ	4 グループ(A/B/C/D)
動作距離	70m以内 ※使用環境により異なります。 TTLモード:先幕シンクロ マニュアルモード(M) :先幕シンクロ
シンクロスピード	TTL高速シャッターモード(TTL+H) : ~ 1/8000sec マニュアル高速シャッターモード(M+H) : ~ 1/8000sec ※カメラの機種により異なります。
シンクロソケット	ホーンジャック (2.5 φ)
機能拡張端子	有り
使用電池	アルカリ乾電池単4形(1.5V) 2本
オートパワーオフ	有り(無操作30分間で作動)
寸法	54(w) × 42(h) × 83(d)mm
重量	66g(本体のみ)

●本仕様は2017年6月現在のものです。改良のため予告なく変更することがあります、あらかじめご了承ください。

25 トラブルシューティング

MEMO

■ Dm-360の電源が入らない。

⇒リチウムイオン電池Dm-360用の電池残量を確認してください。
電池残量が少ない場合、電池を充電してください。

■ Dm-360の電源は入るが、Dm-コントローラーからの操作ができない。

⇒Dm-360本体とDm-コントローラーの電池残量をご確認ください。
⇒ストロボ本体とコントローラーが同じチャンネル、同じグループになっているか、確認してください。
⇒Dm-360または、Dm-コントローラーのディスプレーに、“OF”と表示されている場合、Dm-コントローラーの同じグループスイッチを2秒押すと、コントローラーとストロボに出力が表示され操作可能になります。

■ ディスプレーの文字が崩れる。

⇒Dm-360のメインスイッチをOFFにして、再度ONにしてください。

■ カメラ本体に装着したDm-コントローラーの電源が入らない。

⇒カメラの電源を一旦OFFにして、約3秒経過後Dm-コントローラーの電源をONにしてください。
その後、カメラの電源をONにしてください。